

北 どりくろあ

第106号 2025年1月1日（毎月1日発行）



霊陽誌には「大森大明神」と記されている

きすき
木次線ストロール⑫

ひのほり
日登駅

「伊能忠敬が参拝した神社と

心ほどけるカフェ」

取材日は12月16日の月曜日。どんよりとした冬雲が空を覆っている。土曜日の深夜から降った雪が、朝には屋根に薄く積もっていた。日曜の朝にもまだ雪が降っていたが、昼前には雨に変わって、屋根の雪も溶けてしまった。

朝の7時半過ぎに庄原の自宅を車で出た。備後落合駅に近づくにつれて沿道に雪が残っていて、国道183号線から国道314号線に左折して木次線・油木駅に向かつて登ると積雪の量が増えてくる。油木駅を過ぎて七ヶ所山トンネルをくぐると、雪景色だった。木々が雪の衣を纏っている。ただし、

路上の雪はシャーベット状で、車の走行に支障はない。三井野原駅を過ぎて奥出雲おろちループを下ると、雪は徐々に消えてなくなった。国道314号線から県道25号線に入り、下久野駅に到着したのは9時20分だった。構内の線路跡利用の「駅ナカ農園」では、穴あき防草シートに青ネギの苗が植えられている。9時43分発の宍道行きに乗車、珍しく同乗者が一人。乗客はわたしを含めて7人。久野川に沿った鉄路の車窓は、トンネルもあって景観の変化が豊か。25分

程で日登駅に到着した。料金は210円。出雲神話にちなんだ駅の愛称は「素戔鳴尊（すさのおのみこと）」。「素戔鳴尊が八岐大蛇（やまたのおろち）を退治して奇稲田姫（くしなだひめ）を救い、須賀（須賀神社）の地へ向かう途中、大森の地にしばしば宿泊し、婚儀の準備をしたといわれている。その大森は駅の南方にあり、今は大森神社があって、素戔鳴尊や奇稲田姫などの神様を祀っている。

2018年に改修されたという駅舎の内部には、往時の面影がまだ残っている。待合室の隣に、「日登駅小さな展示場」という看板が掲げられた一室がある。ホームからガラス越しに、木次線に関する様々な資料が展示されているのが見える。待合室にドアがあったが施錠されていた。この駅は民間委託で、カーテンを引かれた事務室には明かりが灯っていたので、帰りに閲覧をお願いするつもりが、列車の待ち時間に余裕がなくスルーしてしまった。

待合室には2枚のチラシが額装されている。永井みゆきが歌う「雨の木次線」と清水博正の「東京坂道物語」。清水博正は群馬県出身の全盲の演歌歌手で、NHKのど自慢でグラントチャンピオンになりデビュー。2015年発売の「東京坂道物語」のカップリング曲（昔

のレコードでいうB面)が「日登駅」で、その歌詞を刻んだ木製の記念碑が駅舎の隣にある。

作曲は弦哲也で作詞がさとうしろう、「風雪」たえるふるさとの小さな駅はかあさんの駅:」で始まる歌詞に、今まで巡り歩いた芸備線や木次線の駅舎の光景が脳裏をよぎった。後にネットのユー・チューブで、清水さんが唄う「日登駅」を聴くことができた。

駅前の県道45号線(安来木次線)を安来方面に少し歩いて、四つ角を右に曲がると、久野川の上に架かる日登大橋がある。欄干から、日登駅も含めて田園地帯の景色が一望できる。稲の切り株から芽

を出した櫓(ひつじ)が黄葉してきれいだ。

橋を渡って進むと、「特別社大森神社」と刻んだ石柱が立っていて、高い石段がある。登り切って一の鳥居をくぐり参道を少し歩くと、路傍に「日本地図作成に生涯現役をかけた男 伊能忠敬測量隊一行 ここを罷り通る」と刻まれた石碑がある。日登大橋の近くにある解説板によると、

「文化十年(一八一三)旧暦の十一月二十四日午後、歩測と間縄で測量しながら、往還沿いに下布施村より郡境をこえた。東日登村のかんな流し作業を視界に鬼畑から大森神社に至る。測量隊一行の一路

平安祈願の参詣。寺領村を眺めながら参道石段で小憩したのは、時に忠敬六十八歳」

来年は数えて68歳になるわたしもがんばらねばと、さらに石段を登って参拝した。由緒を記した解説板によると、大森神社は出雲国風土記に載っている「日原社」であることが定説となっているらしい。霊陽誌(出雲の地誌)には「大森大明神」と記されている。近代に建て替えられたのか、拝殿は現代風の家屋だった。

参道を引き返し、飯石ふれあい農道に戻って久野川の近くの道路を散策。川原に降りる道があればと探したが、近づくこともできなかった。木次線ストロール

では、大小を問わず川があれば、なるべく水辺に降りるようにしている。かなな流しの痕跡である金屎(鉞滓)が見つかるかもしれない。

電子部品の製造を行っているサンセイ電機の角を右折すると国道176号線(掛合大東線)に出る。久野川の橋を渡って、木次線の踏切の手前に倉田カフェがある。足場を組んだ上に店舗があり、片側一面がガラス張りなので眺望がすばらしい。天井が高く、開放感がある。昼前なので、客はわたし一人。

冬の寒気が持病の腰痛に堪えて、杖を頼りにここまで辿り着いたが、しばらくのんびりさせてもらおうつもりで、デザート付きの牛スジカレーランチセットを注文、1680円。前菜のサラダが嬉しい。カレーもデザートも満足。ジャジーな女性ボーカルの洋楽が流れている。けだるい声に心身をゆだねながら、オリジナルブレンドのコーヒーを楽しんだ。

店のチラシに書かれた「心ほどけるおいしい時間」に納得。創業は2015年とある。わたしのどら書房と同じである。「お互い、がんばりましょう!」と心の中でエールを送った。

踏切を渡り、県道45号線に出て、日登駅に向かった。途中、日登郵便局のレトロな円筒形の赤いポストが嬉しい。まだまだ現役だ。12時2分発の備後落合行きが9分遅れで到着、下久野駅に戻った。



伊能忠敬測量隊一行の石碑



夕暮れ時には窓から夕陽が見れるという

「龍蛇のミイラ」

高柴順紀 (菊栽培農家)

「出雲」という活字がどらくろあー05号「絶景の旅①」から目に飛び込んできた。前号では触れなかったが、徳雲寺のお宝の中に出雲に関連するかもしれないものがあるので当然だったのかもしれない。これは活字「出雲」に反応したお宝の続きです。

そのお宝とは方丈さんが箱を開いて中を見せたとき、子供らは気味悪がってワーツと騒いだのであった。写真のように中にとぐろを巻いたヘビが在ったのだから。「その池のと

ころに松の木があるじゃろうが。あの松の木に登ってミイラになつた。じゃけい蛇松の池と言うのよ。これは龍蛇(りゅうじや)のミイラ。ヘビがお宝とは理解できなかったが、大人になってから大変なものかもしれないと考えるようになったのです。さて旧暦の十月、出雲においては神在月。大社の西に位置する稲佐の浜に全国の神々はやって来られるのだが、そこから大社まで三方に載せられた龍蛇神(りゅうじやしん)が

先導役として案内するのです。この龍蛇神の姿は水難、火災などの諸々の災害などから人びとを守るという有難い掛軸に描かれています。その絵が徳雲寺の龍蛇のミイラと全く同じなのです。実は、出雲の人びとはこの季節、強い北風に流されて稲佐の浜に打ち上げられるウミヘビを龍神にお仕えをしている龍蛇神として崇敬しているのですが、神在月の時は大國主のお仕えとして神々の案内役をしているのです。このウミヘビを昔のコメの蒸し器である甑(こしき)を逆さまにした形でとぐろを巻かせるのです。なぜこれが徳雲寺の宝としてあるのか不思議です。



徳雲寺の龍蛇のミイラ



大社龍蛇神の掛軸

さて二十五日の夜になると大社に來られた神々は神送りの儀式によって各地に帰られますが、これが終わると龍蛇神様の船出の儀式、すなわちお葬式が深夜ひっそりと執り行われるのです。役が終わった龍蛇神の霊はどこをさまよふのだろうか。行先が比婆の山寺だとしたら嬉しい。幻想が尽きないお宝ではある。

《徳雲寺の宝物》

鬼の角天狗ノ爪白牛吐却ノ玉二個
龍蛇ノ木乃伊 吉備津明神ノ帽子勅使ノ紫衣一針一拜二十五篠衣 開山伝衣ノ二十五篠衣開山血脈袋開山ノ袈裟二衣 中興宗梅二十五篠衣裏付錦袈裟中興宗梅ノ血脈袋 月の糞蜀江ノ錦探幽ノ達磨雪舟ノ龍百丈禪師ノ書像弘法大師ノ法華經一片

文学探訪

人生探訪の徒、倉田百三の流転⑩ 座談会「百三をどう発信するか」

音谷 健郎

私たちの庄原には、特徴的な産業があるわけではありません。だとすると、胸を張って庄原から発信できるものは何だろうと、思いをめぐらすとき、はたと気がつくのが、「文豪

倉田百三」です。では、どのように発信したらいいのでしょうか。文化活動をしている有志で座談会をしてもらいました。

(1) 百三は今、庄原ではどのように認識されているのでしょうか――

松園 百三の生誕百年記念(1991年)などで百三についてのいろいろな冊子や歌謡曲ができ、いまもかすかに残っています。田園文化センター内の「百三文学館」の存在は、いまも大きい。このような公的なものがあるから、新資料の寄贈、遠方からの来館が続いています。

奥田 百三の名は知っているが、何をした人か知らない子どもが多いですね。小学校高学年では、校歌を作った人とだけは知っています。一番の原因は、百三が三次中学校に行つて、庄原には少年時の足跡を残していないことです。三次の人と思つている人もいます。さらに付け加える

と、百三は中学卒業からすぐ東京に進学して東京に住み着き、庄原でのエピソードが少ないからでしょうね。四反田 百三を調べて何になるの?と言われたことがあります(一同苦笑)。以前に上野池の入り口の民家を借りて、「紫水寮」として百三の本などを並べましたが、花見の頃は訪問客も多かったのですが、やがて訪れる人も少なくなつて、活動を止めました。

赤川 百三の著作の文庫本を店の目立つ所に置いたときもありませんが、売れたことはありません。「前に読んだことはあるけど」と、手に取られる人はいません。古い初版本などもガラスケースで展示販売していますが、珍しそうに声をかけてくる人はいませんが、実際に読んでみようという人はほとんどいません。今の人の関心から外れているのでしょうか。

飯田 17年前から庄原で仕事をされるようになりました。それまでは、百三について関心が無く、本は読みましたが、あまり記憶に残りませんでした。四反田さんお店(簡易郵便局)で展示してる倉田百三の年表を見て、俄然興味を惹かれました。

(2) 庄原から百三をどう発信して

倉田百三文学館 (田園文化センター内1階)

戯曲『出家とその弟子』をはじめとした百三の原稿、著作、遺品、書画、書簡など約200点を展示。書簡の中には、『出家とその弟子』を絶賛したフランスのノーベル文学賞作家ロマン・ロランが倉田百三に宛てた2通も含まれている。

《お問い合わせ》

〒727-0013 広島県庄原市西本町二丁目20番10号

TEL:0824-72-1159





活発に意見が飛び交った座談会の様子（庄原市中本町の
どら書房「漫画ルーム」にて）

いけばいいのだろうか——

西田 いきなり代表作の「出家と
その弟子」を読むのは難しいので、
年に一回ぐらいは、百三関連の講演
会を持つてはどうでしょう。

生誕百年祭で親しみやすい百三を
演出しましたが、今は下火になって
います。何か親しみやすいものを作
るのもいいですね。百年祭のとき
は、百三にちなんだお菓子を作る計
画もありました。

奥田 いま、「比婆山続き勝光の／

峰に白雪つもる時」の庄原国民学校

校歌（1942年作詞）だけが、庄
原小学校校歌として地元を引き継が
れているだけです。この校歌を市民
にも広く歌ってもらって、百三との
接点にしようでしょう。例えば、
庄原駅に着いた客に歌が流れるよう
にしては。現在計画している「百三
小路（しようじ）」に、センサーで歌
が流れるようにしてもいいですね。

四反田 ふるさと納税の記念品に、
百三の親しみやすい自叙伝「光り合
ういのち」などを加えてはど
うでしょうか。というのは、

名古屋での文部省の図書館司
書夏季講習会に参加した時、
私が庄原から来たと知った人
から「倉田百三の出身地です
ね」と声をかけられました。
全国に百三ファンがいること
を意識したいですね。

赤川 そういえば、百三の
足跡をたどって、尾道を訪問
してから庄原までやって来た
大学生がいました。私の古本
屋にも立ち寄ってくれたので
すが、そういう百三や作品に
興味を持つ若い人もまだまだ
いるんだと思います。

飯田 百三の新しい顔のパ

ンフレットを作るのも、いいのでは
ないでしょうか。

赤川 ワンボックスの小さな私設
の本棚がいま、はやっていますが、
それに便乗というわけではありません
が、「倉田百三ボックス・ライブラ
リー」として、公共の場の会館、集
会所、駅などに置いてはどうでしょ
う。倉田百三を紹介するポスターを
貼って、倉田百三文学館のパンフレッ
トや、百三の作品をいくつか置いて
おく。残りのスペースは、市民ライ
ブラリーとして、不要になった本を
寄贈してもらったりと、自由に活用
していただく。うちの古本を寄贈し
てもいいですよ。読書の啓蒙に、百
三を地元のシンボルとして利用させ
てもらおうわけです。そういえば、西
城町のウイル西城には、寄贈の古本
を棚に並べているコーナーがありま
すよね。（以上、座談会）

「文豪倉田百三」を、特色ある庄原
を発信する一助にしてはどうでしょ
うか。決して突飛な発想ではありま
せん。百三文学の「熱量」は、並み
の文学者を寄せ付けません。声を大
にして叫びたいです。庄原の町おこ
しには、倉田百三を。

どら書房 << 貸本屋システム >>

- ・ 店内で販売した本は、どら紙幣（店内専用通貨）であれば半額、現金であれば3割で買い戻します。※破損や汚れがあれば値引
- ・ 書籍購入⇒読了⇒どら紙幣と交換⇒新たな書籍購入、貸本のような感覚でご利用ください。

ハロー注意報⑬

——進駐軍がいた町のはなし

元日の客は二人の大男 松岡初枝

歳の暮れから正月にかけての大変な一日が終り、やっと静かな元日の昼下がり、祖父、父、子供三人は雑煮やお節料理で新年のお食べ初め、祖母と母は朝方やっと眠りにつく。二人は二日分の疲れもあって何があっても起きてこない。

午後、二人がぼーっとしながら雑煮を食べはじめた時、裏口から床屋のMさんがやって来た。「おめでとございます。お疲れのところ本当に申し訳ないんですけど、何とかしてやっ

てほしい人と来たんだよ」「あらMさん、何でしょうか」「関取りのチョン

鬻(まげ)を結ってやってくれないかね」。小柄なMさんの後ろに二人の大男が立っていた。Mさんがざっと説明するところによると、S製作所の社長が関取りの後援会長で、元日早々の社長の客人が、どうしても関取りと会ってみたいと言っている。ところが相撲部屋は元日は全員が休みで、床山さんが一人もつかまらない。何とかなるだろうと、社会人野球でS



羽黒花関

社のキャプテンの車でMさんの所へ行った。「私は髪は切れても結えねえよって言ったら、どこか髪結いさんを紹介してくれてっんでね、先生、何とかしてやってくれないかねえ」「私もお相撲さんの鬻は結ったこと無いよ」「そこを何とか」。三人の男に頭を下げられた祖母は「関取りのザンバラ髪見ちゃ可愛相だ、何とかしましょう」「恩に着ます!」。二人の大男、ひとりには関脇「羽黒花」、もうひとりにはS製作所野球部のキャプテンOさん。祖母の案内で、ズシズシ、ノッシノッシと店へ行く。家中全員が食べている場合じゃあないとばかりに、Mさんと共に皆で店へ行った。

祖母が日本髪を結う時に使う低めで中広の特注の椅子を前に羽黒花関は「私が座ったら壊れるんじゃないかな。」「大丈夫、頑丈な特注ですから」。関取りのお尻が椅子に納まった。「関取り、ビン付け油はどうしましたよ」「ああ、持って来ました」懐から小さい缶を出した。「これは中練りです、ね、いい香を使っていますね」「お師匠(おっしょ)さん、これも特注です!」。祖母は羽黒花さんの髪の毛のクセ直しをした後、ビン付け油をひと缶すべて塗り込み、櫛で丁寧に解かしつける。「お師匠さん、いい腕です」あ

ら、分かるんですか?」「櫛がなめらかです」毎日床山さんに髪を結ってもらっているからすぐに分かると言って笑った。「関取り、それにしても中剃りが大きいですね」「ああ、大きく剃らないとぶつかった時の力で髪が抜けるんで」。鬻を結った所しか見えないほとんどのは、力士の頭のてっぺんに七くハセンチの中剃りがあるのを知らない。どの世界にも楽屋裏というものがあるのを知った。

何とかチョン鬻が結い上がると、居合わせた全員が思わず拍手をしてみました。「本当に助かりました」、二人の大男はホッとした顔だった。関取りが立ち上がるうとした時、お尻が椅子に嵌まってなかなか抜けな。皆で椅子を押さえてやっとなげた所で大笑い、「腰がしっかりしてますねえ」。あたらめて相撲取りの大きさに驚いた。

キャプテンが「お代金はおいくらですか?」と訊いた。「正月に関取りの髪を結わせてもらって、私一生の宝です。お金は要りません」祖母は誇らし気に言った。「御無理言ったんですから、取って頂かないと社長に叱られます」「いいから早く行ってあげなよ」「それでは後ほど」。そう

言って二人が裏口から出た時、外は大勢の人だかりができていた。「あつ、羽黒花だ!」「ほんと、でっかいねえ」。二人は店の前の車に乗り込むと、会釈して去って行った。

それから連日、店ではお客が、裏の茶の間ではおじさん達が、異口同音に「羽黒花のチョン鬘結った時のこと聞かせて!」と言ってやって来る。祖母は「もう何度喋ったか:」と言って溜息をつくほどだった。私や弟も学校でいろいろ尋ねられ、やれやれと思った。それにしても、人の噂は広がるのが早いものだと思改めて知った思いだった。

大相撲の初場所が始まると、我が家では自然に羽黒花の応援をしていた。土俵上の関取り達は皆大銀杏に

髪を結っている。「大銀杏は奇麗だねえ、結い上げる所が見てみたい:」祖母はうっとりとしながら関取り達の鬘ばかり見ていたように思う。

初場所が始まって間もない日、S製作所の社会人野球部のキャプテンOさんが、大きな箱を抱えて店にやって来た。「こんにちは、先日はありがとうございました。遅くなりましたが、社長からの御礼を持ってまいりましたのでお受け取りください」「あらまあ、お気づかいは要りませんのに:」。キャプテンは箱と一緒に羽黒花のサイン色紙も渡してくれた。箱の中には、銀座コロソンの特大のホールケーキが入っていた。夕方、切り分けて皆で食べたフルーツケーキのおいしかったこと、店のおネエ

さん達も感激していた。「さすがS社長は旨い物知ってるね」祖母は得意気な表情でケーキを頬張っていた。その年の初場所が忘れられない十五日間であったことは言うまでもない。

次の年、S製作所や市内の会社の後援はじめ、ジョンソン基地司令のたつての希望などもあり、基地の広場で“ジョンソン基地場所”大相撲の巡業が行われた。関脇羽黒花はもちろんのこと、埼玉県出身の御当地力士である“若秩父”が小結に昇進したこともあって大盛況だった。S製作所の社長から我が家に棧敷席がプレゼントされて、店の仕事を休めない母やおネエさん達の残念そうな顔と溜息に送られ、祖母、父、子供達で観戦に行った。千代の山、朝汐、大

内山、明武谷、安念山などテレビで見ると力士達が目の前で力強くぶつかり合う様は本当に迫力があつた。そして大内山の大きな体、朝汐のゲジゲジ眉毛にはびっくりさせられた。「みんないい香りのピン付け油を使ってるねえ:」祖母はどこまでも仕事人そのものの感想を言い、祖父、父はS社の社長の手厚い配慮に深く感謝していた。何人かの力士の手形入りの色紙を頂いて、夢のような一日だったことは今も忘れない。

後年、家族である年の正月元日のことや、相撲観戦の日のことを語り合う時、いつも同じ結論になる。それは、いつ何時思いがけない事が起こるか分からない、そして頼りにされたら出来る限り叶えてあげられるようにする。人の出会いは本当に不思議なものだ。今年も大相撲の初場所が始まるが、六十数年前の羽黒花や野球のキャプテン達のホツとしたあの笑顔を忘れることはない。

後年、家族である年の正月元日のことや、相撲観戦の日のことを語り合う時、いつも同じ結論になる。それは、いつ何時思いがけない事が起こるか分からない、そして頼りにされたら出来る限り叶えてあげられるようにする。人の出会いは本当に不思議なものだ。今年も大相撲の初場所が始まるが、六十数年前の羽黒花や野球のキャプテン達のホツとしたあの笑顔を忘れることはない。



やっと正月、ホツとした顔の祖父



桃割れを結った筆者(小学6年時)



昨夜から大雪警報が出ているが、まだ雪は降っていない。

「元旦だというのに店を開けているのは、よっぽどすることがないんだな」

山本文吾さんは、相変わらず口が悪い。定休日や在庫整理の休業期間を除いては、原則開店がうちの店のポリシー、いや矜持である。

「働き者だと言ってほしいですね。文吾さんこそ、正月早々、暇つぶしで仕事の邪魔をしないでくださいよ」

正直、正月に店を開けても、初詣帰りの客が物珍しそうに顔を覗かせるだけだ。ほとんど開店休業状態なので、なるべく古本屋の仕事はしないで、のんびり本を読んで過ごすのがわたしの正月だった。

「うどんは好きかい？」

分が悪いと思ったのか、話題を変えた。

「けっこう食べますね。寒いときは、熱々のおつゆだけでもご馳走ですから」

文吾さんが頷いた。

「東京のまっくらなうどんのつゆを見たときはびっくりしたよ。馴れるとあれも不味くはないが、所詮、蕎麦を食べるためのつゆなんだ。うど

んもちよつと固いしな」

同感だと首肯した。

「広島駅に着いた時は、いつもホームにある立ち食いうどんを二杯、食べるんだ。鯉節のだしの効いたつゆを飲むと、帰って来たんだという感慨が湧いてくる……」

鼻先に鯉だしの匂いがただよってきたような気がした。

「その広島のうどんを、東京で食べた

体は、物乞いと変わりはない。いつもは相手にしないんだが、息が白くなるほどの寒い夜で、薄汚れたジャケットを羽織っているだけの貧相な格好に同情して、一冊買ってあげた。ガリ版刷りの手作りの冊子で、千円は高いと思ったのを覚えている。詩集のタイトルは『糞虫』……」

目を綴じて、記憶をたぐっている。「おまえは糞虫だ。利口ぶっているが、

何もわかつちやいない。腐った汚物を喰らって生きている蛆虫だ」

目を開けた。

広島うどん

あきふゆひこ
亜木冬彦

現代御伽草子 ⑨7

※県北の歴史や風物を題材としたフィクションです。

ことがあるんだ」

そう言って、持参した缶コーヒーを口に含んだ。

新宿駅の外に出て、乗り換えのために西武新宿線の駅まで歩いている時だったという。初老の男に、自分の詩集を買ってくれないかと声をかけられた。

「昔はそういう輩（やから）がけっこういたんだ。自称、芸術家だね。実

た……」

文吾さんの解説は、純文学のよう

にめんどくさい。「その詩人のおっさんに、出身地を尋ねられた。広島だという嬉しそうな顔をした。広島

のうどんを食べに行きませんか誘われた。以前に酔っぱらって歌舞伎町をぶらついて

いるときに、年増の姐さんから飲みに行こうと誘われた。連れて行かれたのが小さな居酒屋だったんで安心して飲んでいたら、ぼったくられた。新宿は、油断も隙も無い街だからな。今回もやばいと思った。でも、広島

のうどんに心惹かれた。うどんでぼったくりはないだろうと自分に言い聞かせて、詩人のおっさんに付いて行った。ゴールデン街の路地裏にある、カウンター席が五つしかない小さな店だった」

情景がありありと浮かんできた。

「三十絡みの女が迎えてくれた。会話からして、おっさんの娘のよう

だ。うどんを出せと言ってるんだが、そのなのメニューにないと拒んでい

る。おまえが夜食で食べているのを

判なんだが、おれも糞虫なんだと妙に納得してしまっ

た。おっさんは梅干しを入れた焼酎のお湯割り、おれはジンライ

ムが通用する、のどかな時代だっ

た。目を飲んだ。目の前におかれたどん



ぶりをを見て、本物だと確信した。つゆの色だけでわかるんだ。かまぼこと刻んだネギ、とろろ昆布をのせただけの素朴なうどんだが、つゆを口に含んだだけで鰹節の風味が広がって、ああ、広島のおうどんだと感激した」

缶コーヒーをグビりと飲んだ。

「アヤという名前だった。まあ、本名かどうかはあやしいけどな。アヤ自身は東京の生まれだが、母親が広島の人だったようだ。他で飲んで酔うと、広島のおうどんにシメたくなる。おれの悪癖で、酔うと

本が読みたくなる。他の店でこれやると嫌われるんだが、彼女はまったく屈託がないようだった。元々口の重い方で、水商売には向いていない性格だった。おれはジンライムを飲みながら本を読んで、うどんがでるのを待つんだ」

文吾さんが苦笑を浮かべた。

「半年ぐらい通ったかな。突然、店からアヤの姿が消えた。元々、店のオーナーが身体を壊して入院して、復帰するまでのつなぎとして店を任されていたのは知っていたが、期限がいつかは教えてもらっていなかったんだ。オーナーの婆さんに聞いても、居場所は知らないと言っていた。アヤから、教えるなど言われていたのかもしれないな」

薄くなった白髪をポリポリ掻いた。

「おれはすでに、妻子持ちだったからな。思い当たることはあったんだ。最後に食べたアヤのおうどんが豪華だった。甘辛く煮込んだ牛肉に、サツマイモの天ぷらまでのっていた。素朴なうどんもいいが、牛肉の旨味が溶けだしたつゆも、ふやけたてんぶらの触感もたまらない。今日はどうしたんだと尋ねても、彼女は微笑んでいるだけだった。あれが、最後

の晩餐……、いや、東京で食べた最後の広島うどんだったな」

缶コーヒーを飲み干した。

「アヤさんとはそれつきりですか？」

思わず訊いてしまった。

「それがな。この前、神石高原町をドライブしていたら、『うどん屋』の暖簾を見かけたんだ。古民家を改装……、いや少し手直ししたただけの小さな店なんだが、昼時だったので入ってみた。アヤの母親は、神石町の出身だと聞いていたのが、頭のみにはあった」

一呼吸置いた。

「お茶を運んで来た女性を見て驚いたよ。三十年以上も前のアヤがそのまま現れたような気がした。すぐに違う人物だと気づいたがね。勘違いするほど似ていたんだ」

文吾さんがニヤリと笑った。

「こんな物語はどうだろう？」

天邪鬼で、どこまで本当のことを言っているのかわからない。

「うどんが食べたくなってきましたよ。今度、その店に連れて行ってください」

困った顔をしたが、小さく頷いた。

「婆さんの店主しかいないけどな」

店の外に目をやると、雪が降り始めている。

まちの古本屋さん どろ書房

古書探索の旅に、お気軽にお立ち寄りください。

- ・無料本、百円本、50円本などのコーナー。無料の漫画ルームもあります。
- ・地元のポストカード、新鮮野菜の店頭無人販売もやっています。

※九日市の開催日は定休日でも開店します。

- 庄原市中本町 2-1-10
- 定休日：毎週月・火曜日（2月は店内整理で全休）
- TEL：090(9913)3052
- 営業時間 9:30～18:30

※広島銀行庄原支店の手前（三次側から）※交差点角のまちなか駐車場が使用できます。

「旧暦」のカレンダーを見る

古川行洋

第三部 生活に身近な項目を見る

(※項目はランダムです)

一月二日 諸事始

年が明けて初めて仕事をすること
で、正月二日に行なわれる行事。商

店ならば初荷や、初売り、農村では二日に田畑に鍬を入れたり、草履(ぞうり)や縄作りの作業を始めた。漁村では舟の乗り始め、山村では木の伐り始めを行なう。また、書初め・縫初め・弾き初めもある。

昔は、掃除はもちろん料理にしても、大晦日の夜までにすっかり片付けてしまい、元日は何もしないで静かに迎えるのが常であった。

一月二日 初夢

新年になってはじめて見る夢のこと。しかし、初夢の夜をいつにするかについては、一様ではなく諸説ある。古くは節分の夜に見る夢だとも言われた。元日の夢は二日の明け方に見ることもあるので、二日に見る夢とも言われている。

昔の人は、夢を神仏の示しであると信じていた。夢見を気にし、夢によって吉

凶を占ったりした。それだけに年の初めにあたって、よい夢を見たいという願いは強いものがあり、初夢を重視したのである。

よい夢を見るために、宝船の絵を枕の下に敷いて寝るといふしきたりがあった。また、目出たい夢として「一富士、二鷹、三茄子(なすび)」がある。昔から宝船・富士・春駒の初夢は、縁起がよいとされた。

宝船については、室町時代に起こったと言われている。初めは節分または、年の暮れに貧乏神を乗せて流す呪(まじな)いとして使われたが、後になって初夢を見るために用いられるようになったらしい。

一月十一日 鏡開き

正月に供えた鏡餅を下げて食べる祝いの儀式である。昔は、正月二十日に行なわれていたが、徳川三代將軍家光が他界したのが二十であったため、十一日に変更され現在に至っていると伝えられている。

鏡餅は刃物で切らずに、手や槌で割ったり砕いたりして食べるのがしきたりである。そこで、切るとは言わないで「開く」と、目出たい言葉をつかったのである。

一月十五日 小正月

月の満ち欠けを日付の基準にした

旧暦では、一年の最初の満月の日、つまり旧暦一月十五日が正月であった。ところが、新暦が採用されてからは一月一日(元日)を一年の初日とした。そこから、元日を大正月、十五日を小正月と呼ぶようになったのである。そして、大正月に対して、民間では小正月には家庭的な行事が色々と行なわれた。邪気を払う小豆の粥を食べたり、どんど焼き(左義長とも言う)と呼ばれる火祭りの行事があり、そこで焼いた餅を食べて無病息災を願ったり、注連縄(しめなわ)や書初めを燃やす。

地方によれば、この小正月を松の内に忙しく働いた女性がひと休みできることから「女正月」とよぶ。また、餅花(餅を薄くのばし、丸く平たく切って彩色したもの)、削り花(神仏などに供える飾り棒のこと)などを飾ったことから「花正月」とよぶ。

(著者は広島市安佐地区の郷土史研究会「安佐通史会」会長。旧暦の啓蒙や「旧暦カレンダー」の普及に尽力している。)

※旧暦の新年は一月二十九日(新暦)スタート。旧暦カレンダー、好評販売中!



ヨーロッパ23日間「卒業旅行」(四)

マック☆ヤマザキ

1990年2月20日(火)、イギリスのドーバー港からフェリーでドーバー海峡を渡り、フランス側のカレー港に向かった。あいにく天候が悪く、フェリーは激しく揺れた。

航路の海底では日本の企業「川崎重工」が海底トンネルを掘っていることを機内誌で知った。フェリーに乗り込む前、学生たちに「海底での日本企業の活躍」を伝えておいた。船底数百メートル直下で、日本人と

日本企業が活躍中であることが、気分的にお守り代わりになるのではと思った。学生たちには、揺れる船内で昼食を終らせ、ポンドからフランスへ両替も済ませてもらった。

カレー港からフランスの首都パリまでは、夕方のラッシュアワーに出くわし、通常約3時間のところ4時間以上かかった。そればかりか、バス・ドライパーに指示された住所のホテルには、旅行手配業者から予約が入って



ておらず、ガイドと

ドライパーが悪戦苦闘の末、同じ名称の“郊外”にあるホテルであることがわかって一安心。

花の都・パリの午前中の観光は、世界遺産に登録されている荘厳なノートルダム大聖堂。「バラ窓」や「ステンドグラス」、頭の部分が尖っ

た「尖頭アーチ」など重い石造りを軽快に見せる演出と、高さを強調するゴシック建築の建物だ。ノートルダム大聖堂前で全員の集合写真を撮った。そのスケッチ(「県北どころくろあ103号」掲載)で気づいたのが、「フライング・バットレス」と言つて、白鳥が羽を広げたように見える湾曲の棒状のものは、外壁補強の役割を果たしていること。内部にある「バラ窓のステンドグラス」はじっと見詰めていると、夢の世界に吸い込まれていくようだった。

次の日はヴェルサイユ宮殿に行った。朝8時30分、希望者のみロビーに集合し、路線バスでヴェルサイユ宮殿に向かう。我々のホテルはパリ市内には遠い分、ヴェルサイユ宮殿に近く、バスを乗り継いで約30分ほどで宮殿に着いた。この宮殿は夏場はとても混んでいるため、冬の今どきは見物には最適のシーズンと言える。

宮殿、庭園、林、噴水の美は世界的に知られている。ルイ14世「太陽王」が政府をここに移し1664年大宮殿を造営してから、政治、経済の中心地として繁栄するに至った。日本では「宝塚歌劇・ベルサイユのばら」でちょっとしたブームになったこともあって、ほとんどの学生が興味を

持っていて、いそいそと出かけて行った。

全長約75メートルの美しい鏡張り回廊(写真)は、ルイ14世の妃であるマリー・アントワネットが「舞踏会」を開催し、シャンデリアと燭台に3000本もの蠟燭(ろうそく)が灯された。一方、パリ市内ではパン一切れにも困窮している市民たちの不満が爆発して、ヴェルサイユ宮殿めがけて行進。マリー・アントワネットをパリ市内に引き連れ、コンコルド広場においてギロチンで首切り処刑、市民革命の始まりとなった。

余談だが、初期の建設は水道の設備が施されていなかったため、ルイ14世やマリー・アントワネットが使用していたトイレは椅子製の便器で、汚物は下の受け皿にたまるようになっていた。王様用はビロード張りで金銀の獅子刺繍付きの豪華なものだった。

舞踏会の時、清潔好きな人は携帯式便器(おまる)を持参。おまるにたまった汚物は、召使たちが庭に捨てていた。豪華な鏡の窓から庭に捨てられた汚物の悪臭を、紳士、淑女はいかように感じていたのだろうか。

どろくろ俳壇&歌壇

※参加を歓迎します。

走りみて凧の上りしこと知らず

近藤 昌平

素朴さも稚拙もありぬ注連飾り

富久光

ふる里に人のやさしさ石露の花

片岡 正人

風花や庭木はすべて薄化粧

隆愚

それなりに衣食の足りて大根煮る

大槇 三代子

暮れ残る庭の静けさ石露の花

寺内 龍二

雪帽子かぶりて子安の地蔵さま

赤川 冬人

青春を共にすごせし君想ふ

松岡 初枝

いつの日かまた黄泉にて逢ひたし

投稿&寄稿

候のことば

「水沢腹堅」

隆愚

の候といえます。沢に氷が厚く張りつめる頃です。「水沢」は水のある沢の事。「腹」という字は厚いという意味を持っています。その氷が堅いという厳寒の時期ならではの氷の風景です。

「大寒」は一月二十日です。七十二候の「大寒の次候」は一月二十五日から一月二十九日頃です。この候を「水沢腹堅（みずさわあつくかたし）」

そんな氷には、鏡の様にまわりの風景が映ります。それを「氷面鏡」といいました。どんなに厚く張った

水でも暖かくなれば解けます。「氷面鏡」も歌に詠まれる時は、「解く」を導く序詞（じょことば）として用いられました。

濃く淡く木々影落とす氷面鏡

池内友次郎

「ネカフェ放浪」 赤川 仁洋

田舎暮らしが気に入っているが、残念に思うこともある。いちばんはネットカフェ、わたしの場合は漫画が目的だから、旧来の漫画喫茶と呼んだ方がしっくりくる。以前は、福山市の神辺まで遠征していた時期がある。コロナ禍でその店も閉店、それ以上遠くなると、日帰りではのんびりできなくなる。

それで思いついたのが、ネットカフェでの宿泊。最近鍵付き個室を用意している大手チェーン店があつて、ホテル代わりに利用している。わたしは一人旅がほとんどだから、ビジネスホテルの監獄のような部屋にいるよりも、漫画を見たりネットで見たりして過ごす方がはるかに楽しい。料金も、21時間パックでシルバー割引が付いて5千円ぐらいと安上がり。飲み物もソフトクリームもオールフリー。



今回の木次線ストロールの日登駅を取材した後で、松江市内のネットカフェで一泊。朝になって、飲食用のテーブルで無料サービスのトーストを食べていると、鍵付き個室エリアから退出する人が前を通り過ぎて行く。若い人だけではなく、わたし以上に高齢の人もある。そして、両手いっぱい荷物を抱えた30がらみの男性。旅行というより、身の回りの必要品を抱えて移動しているという感じ。ネットカフェ難民？ 困窮しているという切迫感はない。ネットカフェを渡り歩いて生活している？ 年甲斐もなく、羨ましい思いが少し。もう無理かな（苦笑）。

どらくろあ 掲示板

地域のイベント情報やメンバー募集など
情報掲示板です。

— 硬式テニス参加者募集 —
MTEC (Miyoshi Tennis Enjoy Club)
場所：三次運動公園の屋内&屋外コート

- ・火曜日 (9:30 ~ 12:00)
- ・水曜日 (9:30 ~ 12:00)
- ・土曜日 (10:00 ~ 12:00)



《情報&原稿を募集します!!》

- 仲間募集
- 教室&講座案内
- イベント情報
- あなたの大切な本の紹介
- ボランティア・ライター(現地記者)募集!

※応募先はどら書房・赤川まで。
掲載は無料です。

どらくろあ ホームページ

バックナンバーも掲載して
いるので、ダウンロードして
お楽しみいただけます。



<http://shobara.wix.com/dorakuroa>

徳岡政暁 陶芸作品コーナー

陶芸家、画家(徳岡佛性坊)として多彩な
活動をしてきた故・徳岡政暁氏の陶芸作品
の展示販売を、どら書房の一角でしていま
す。

茶碗や花器、陶板や料理皿、多様な作品を
展示しています。あなたのお気に入りの逸
品が見つかるかもしれません。

※天井が低いので頭上注意!

黒ニンニク好評発売中! (どら書房店内にて)

- ・青森産ニンニクホワイト六片使用。
- ・甘みと適度な酸味、ニンニク臭さは
ありません。
- ・ポリフェノール含有で、抗酸化作用、
滋養効果を期待。

80g入り: 500円

※増量ジャンボニンニクもあります。



「旧暦カレンダー」(販売価格: 1,650円)

- ・日本の自然に根差した暦(こよみ)です。
- ・太陽暦でも太陰暦でもない、「太陰太陽暦」です。
- ・新暦(太陽暦)も併記しているので便利です。
- ・季節の行事や呼び名の意味が、より深く理解できます。
- ・自然災害の予測ができます。

どら書房にて令和7年度版 好評販売中!

※旧暦は1月29日(新暦)が新年のスタートです。

発行: どら書房

〒727-0012

庄原市中本町 2-1-10

☎090(9913)3052(赤川)

e-mail: touzin@nifty.com

誌面デザイン: ROUTE183

協賛: 九日市愛好会

編集後記

◇新年です。本誌の
創刊は2016年4
月、9年目に入ります。
◇石油ストーブを出し
たのですが、断熱材の
ない古い建物なので、
なかなか暖まらないで
すね。灯油はバカ高、
懐も激寒です(苦笑)。
◇古本に挟んであった198
6年の小さなカレンダー、祝
日が少し違っていましたが、日
付と曜日は今年とまったく同
じ。不思議な感覚です。あ
の年はまだ20代、何をしていた
か、何を考えていたか思い出
せない……。実は、昨年末よ
り日記を書いています。
◇どら書房は、定休日以外
年末年始も関係なく開店。今
年は元旦から店を開けていま
す。本年もよろしくお願いま
す。

第280回

くんちいち

ひょうばあ九日市

◇ イベント情報 ◇

★毎年恒例の大福引大会を開催予定です。今回も景品をたくさん用意しております！

★着物レンタル（着付あり）500円（福引券プレゼント）場所：楽笑座（9時半～）



1月9日(ホ)

9:00～13:00

恒例、新年大福引大会！

★300円以上買い物で抽選券進呈★

場所：三上宅 開始時間：10時～

特賞：1万円、旧5千円札、商品券
九日市出店者が賞品多数提供！

TOPICS(開催場所は裏面の地図参照)

★市民ギャラリー「アート多愛夢」
1月8日(水)～10日(金) 10時～15時
「世界児童画作品展」

★HONMACHI STAND→コーヒー100円引き

★カフェクラウド タピオカドリンク 100円引き
九日市特製ビタサンド 600円

★アンドカフェ（比婆医院隣接）、2種類のスムージーが100円引き。

★どら書房、休憩室（漫画ルーム）あります！ 無料です。

★あなたも自分のお店を出してみませんか？（出店者募集中！）

*出店申込みは、【毎月20日締切】 コンパネ1枚スペース1,200円～
九日市愛好会事務局 TEL/FAX(0824)72-8285
〒727-0013 庄原市西本町2-1-10（楽笑座内）

【ホームページ】
<http://www.kunchi-ichi.jp>

